



学校経営方針

(令和4年4月1日)

調布市立第二小学校長 安藤 力也

I 基本理念

学校は、子どもの健やかな成長のためにある。学校では、子どもが夢や希望をもちながら、自分の力を精一杯出して、より高い目標に向かって挑戦していくことが大切である。

私たち教職員は、「子どもたちの未来に触れている」という責任と誇りを胸に、心を一つにして、子どもたちのために精いっぱい力を尽くさなければならない。

子どもたちが自分の「よさ」に気付き、自己肯定感を高めるとともに、他者の「よさ」や違いを認め合い、尊重し合いながら、未来を拓く「生きる力」を育てるために、私たち教師も子どもと共に学び続けていく。そして、学校、保護者・地域住民などが相互に連携、協力しながら、教育活動を推進していく。

**☆「自他尊重」⇒自分の「よさ」に気付き、自分を大切にする
⇒周りの人の「よさ」や違いを認め合い、大切に思う**

II 教育目標（目指す児童像）

本校は、「児童一人一人を大切にしたい学校づくり」を通して、豊かな情操と人権意識を培い、幅広い知識と教養を身に付けるとともに健やかな身体を養う児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。

かがやけ 二小の子

- 1 **か** ながえる子（自ら学びに向かう子ども）
- ② **が** んばる子（自己肯定感をもち、ねばり強く取組む子ども）
- 3 **や** さしい子（多様な価値観を認め合える子ども）
- 4 **け** んこうな子（自ら健康な生活を送ることのできる子ども）

〔②は、本年度の重点目標〕

Ⅲ 目指す学校像『子ども一人一人を大切に作る学校』

- 1 個性が尊重され、一人一人が大切にされる学校
- 2 楽しく学び、確かな学力が身に付く学校
- 3 健康と安心・安全を大切に作る学校
- 4 教職員が専門性を高め合い、共に学び合う学校
- 5 保護者・地域と共に歩む学校

＜基本指導事項（教育活動に臨むときに、まず基盤として全教職員で取り組むこと）＞

- 気持ちのよい挨拶と対話 ○ 目と耳と心で話を聴く ○ 主体的に時間を守る
（良好な人間関係の構築） （人権尊重教育を踏まえ） （授業の充実・二小スタンダード）

＜二小スタンダード＞

- ① あいさつで始め、あいさつで終わる
- ② 背筋を伸ばして座る
- ③ 話している人に体を向ける
- ④ 手を挙げて、指名されたら発言する
- ⑤ 授業の片付けをする時、または次の時間までに授業の用意をする

Ⅳ 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 自ら学びに向かう子どもを育成するために

「何のために学ぶのか」という学習の意義を児童と共有しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。習熟度別指導や講師による指導を活用し、学習の基盤となる資質・能力を明確にし、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の向上を目指す。「二小スタンダード」・「二小の約束」に基づき全教職員が同じ視点で、学習規律・生活規律のある指導にあたる。

イ 自己肯定感をもち、粘り強く取り組む子どもを育成するために

児童一人一人の教育的なニーズに応え、自己肯定感を高めたり、他者理解を深めたりすることに視点を当てた校内研究を充実させる。

異学年交流「たてわり班活動」通年実施することで、課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図るなどして意思決定の能力の伸長を図るとともに集団の一員としての自覚をうながし、自主的・実践的な態度の育成を図る。また、行事ごとにそのめあてを明確化し達成感を味わうことで、自己の生き方について考えを深めると共に自己実現を図ろうとする態度を養う。

家庭との協力を面談や保護者会、日々の連絡等個別の教育支援計画及び個別指導計画を十分に活用し、児童のよいところを伸ばしていく。また、教職員や校内通級教室との情報共有を十分にいき、校内委員会を中心として特別支援教室専門員、スクールカウンセラーを活用し組織的な活動の充実、さらに、教育支援コーディネーター室や教育相談所、その他関係諸機関と連携を図る。

ウ 多様な価値観を認め合える子どもを育成するために

人権尊重の精神を基盤とし、児童、教師、保護者、地域が一体となっていじめや体罰を許さない学校風土を醸成する。自分の「よさ」や他者の「よさ」、互いの違いを認め合い、自分も他の人も大切に育てる児童の育成を図る人権教育を推進する。

異学年交流「たてわり班活動」通年実施することで、発達段階の違いなど、多様な個性を認め寛容に関わり合う気持ちの育成や互いに思いやる心・学びあう心の育成を図る。

また、教科等横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメントの取組をすべての教育活動で推進する。

エ 自ら健康な生活を送ることのできる子どもを育成するために

芝生化校庭の施設や体力テストの結果を活用しながら体育・保健体育の授業改善を進め、心身ともに健康な児童を育成する。コーディネーショントレーニング地域拠点校の経験を生かし、生涯スポーツに向き合えるような意欲を育てる。オリンピック・パラリンピック教育の成果を生かし学校2020レガシー構築を目指し、すすんで運動や伝統文化に取り組む意欲・姿勢を育てる。食に関する指導の全体計画にもとづいて学習指導や給食指導の取組を通して、健康教育、食に関する教育を充実させる。

オ 学校の教育目標達成に向けて

① 安全・安心な学校づくり

快適で安心できる学習環境の構築を目指し、けがや事故のない安心した教育環境をつくる。そのために教職員の安全への意識・行動を一層高めるとともに、生活のきまりの保護者への説明を丁寧に行うなど保護者との協力も仰ぎ、食物アレルギー対応も含め、安全教育を組織的・計画的に行い、安全・安心な学校づくりを進める。また、地域と連携した防災・安全教育の計画的な実施を通して、児童の事件や事故災害等から身を守り安全に行動する力を高める。

② 協働の学校づくり

教員及びスタッフが一人一人の児童と向き合い、教育活動を充実させるために定期的な階層に応じたOJTを推進し校務の改善・充実を図る。また、服務事故の防止、丁寧で粘り強い児童指導と保護者対応の取組を組織的に進め、児童・保護者・地域からの信頼を継続する。さらに関係諸機関・家庭・地域と連携し、人や文化・地域社会とかかわる体験活動を通して地域理解と地域への愛着を深める。

私たちは「子どもたちの未来に触れている」という責任と誇りを胸に、かけがえないわが子を思う保護者の皆様の思いに寄り添い、最善の努力をしております。

これからも、地域・保護者の皆様に愛され、ともに歩み、そして第二小学校の「よさ」を生かしながら、第二小学校ならではの教育活動を進めるべく、職員一同、誠心誠意努力しております。

保護者の皆様には、「チーム二小」の一員として、子どもたちの健やかな成長のために、本校の教育活動へご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。